

八には備前國兒島郡小豆島とあり、今は讚岐寒川郡川に屬り、中名義未思得ず字も正字か借字か定めがたし、

〔南海通紀十六〕仙石秀久攻高松城記

天正十一年ニ、仙石權兵衛尉秀久、讚岐ノ國ヲ賜テ小豆島ニ來リ、引田ノ浦ヲ取テ島ヨリカケ持ニシ、時變ヲ考フ、安富肥前守ハ元ヨリ秀吉公ヘ人質ヲ出シタレバ、土佐方ニ不從シテ、雨瀧ノ城ヲ明テ、小豆島ニ涉リ居ス、

〔萬葉集二〕讚岐狹岑島挽歌視石中死人柿本朝臣人麿作歌一首并短歌

玉藻吉讚岐國者國柄加雖見不飽略彼此之島者雖多名細之狹岑之島乃荒磯面爾廬作而見者略

〔源平盛衰記八〕讚岐院事

新院讚州配流ノ後ハ讚岐院ト申ケルヲ廿九日ニ御追號有テ崇徳院トゾ申ケル、去ル保元元年七月ニ、當國ニ遷サレ御座テ始ハ直島ニ渡ラセ給ケルガ略

〔吾妻鏡三〕壽永三年元曆九月十九日乙巳、平氏一族去二月、被破攝津國一谷要害之後、至于西海掠虜彼國云云略

讚岐國御家人 注進平家當國屋島落付御坐、拾參源氏御方、奉京都候御家人交名事略

元曆元年五月日

〔吾妻鏡四〕元曆二年文治二月十六日庚午、關東軍兵爲追討平氏赴讚岐國略平家者結陣於兩

所前内府宗盛以讚岐國屋島爲城郭、

〔鹿苑院殿嚴島詣記〕康應元年三月廿二日、讚岐國にもなりぬ、やつまといふ島わあり、此しまは人の家のつまむきに似たるゆへにいふとなり、二面といふこじまも侍り、松がへなどおひたり、な